

下野市立国分寺東小学校

1 学校課題

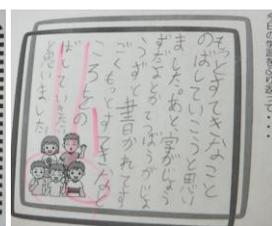
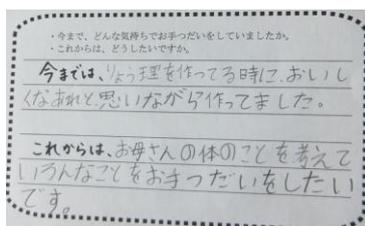
「互いに認め合い ともに伸びるひがしっ子の育成」 ～心ひとつに かしこく やさしく たくましく～

本校は、一昨年度から人権教育の研究を推進してきた。昨年度までの、「人権が尊重される授業づくり」の研究では、受容的な態度を身に付けて相手の発言から自分の考えを深められるようになってきた。また、「人権が尊重される人間関係づくり」の研究からは、児童の自己肯定感・有用感を高めてきた。

今年度は、教師の研究をより深めたいという思いと、児童の現状としての必要性、学校評価の保護者の「人間関係づくり」に対する継続的な取り組みへの希望から、人権教育で育てたい能力・態度を意識しながら、各教科・領域のめあてに迫るための指導の工夫についての研究に取り組むことにした。

2 研究計画

月	主な研究内容
4～5	<ul style="list-style-type: none"> ○学校課題確認・共通理解（全体会） ○PTA総会、学級級懇談保護者への啓発 ○校内研修 児童理解のための事例研究会 ○なかよし班作り・なかよし班コーナーの掲示（写真/班活動予定） ○各学年だよりの「ハートフルコーナー」で毎月紹介・啓発
6～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ○「ハートフルコーナー」の設置（昇降口・各教室）掲示（常時・定期） ○第1回学級力アンケート実施 ○児童集会（1年生を迎える会） ○第1回授業研究会（5/28）指導・助言者 宇都宮大学 橘川眞彦 教授 下野市教育委員会 坂本順子 指導主事 1年道徳 6年国語 4年学級活動 ○児童集会（県民の日ふれあい活動） ○第2回授業研究会（6/16・18）1年道徳 5年算数 4年学級活動 ○第3回授業研究会（7/16） 3年道徳 6年体育 2年国語 ○運動会（児童会種目） ○要請訪問（10/15）指導者 下都賀教育事務所指導主事 土方勝先生 ○第2回学級力アンケート実施 ○第4回授業研究会（12/3） 1年道徳（直接的指導）5年道徳（直接的指導） ○校内人権週間 関連授業の実施と公開 標語づくり 「あすへのびる」作文読み聞かせ ○PTA 共催 人権教育講演会（講話）（12/10） 下都賀教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 早乙女寿雄 先生 ○下野市人権教育講演会への参加 全国webカウンセリング協議会理事長 安川雅史 先生 (12/20)
12～ 2	<ul style="list-style-type: none"> ○なかよし班 長縄練習（業間）と児童集会（長縄大会） ○学級力のとらえ方と学級力の育成についての研修 ○感謝の会と児童集会（6年生を送る会） ○本年度の反省及び次年度の課題



3 研究内容

児童が互いにかげがえのない存在として大切に思い、より豊かで温かな人間関係を構築し

ていくための人権感覚の涵養をねらいとし、授業研究、活動実践、研修啓発の具体的な実践を図った。

(1) 自他を尊重し、豊かで深いものの見方の育成

豊かで確かなものの見方や捉え方を身に付けさせるために、児童一人一人の自尊感情を高め、他者と学び合いによって自他の違いやよさを認め合う授業を通して、児童一人一人を大切にしたい授業づくりを実践した。

- ① 学年の発達段階に応じた「学習のスキル」をもとにした学習の基礎基本の定着
- ② 学習意欲や学習効果を高めるために、学び合いを大切にしたい授業の展開の工夫



(2) 互いの考えやよさを認め合い、よりよい人間関係を築く場の設定

互いに認め合い、自他を大切にしようとする感情や態度が育つように、日々の学級経営を基盤に据え、さまざまな交流学習や関わり合いを工夫し実践していくこととした。

- ① 学級力調査を通しての学級状況分析と努力目標明確化による確かな児童理解、児童が豊かな人間関係を築くために必要な資質や態度の育成



よりよい話し合いのポイント掲示



② 異学年や異校種間のさまざまな交流活動の実践

- ・ 共遊班による異学年交流 児童集会や委員会・クラブ活動の工夫
- ・ 国分寺特別支援学校との学習交流・地域の方とのふれあい・「子ども未来プロジェクト」を通しての国中生との交流

(3) 教職員の人権感覚を磨く研修と保護者との連携

小学校における「人権教育」が効果的に深まるように、人権尊重の精神の正しい認識や人権感覚を磨く研修の場を設定し、教職員と保護者が共通思考で子どもを育むための連携をとった。

- ① 教職員が人権感覚を高めるための講演や演習等の研修
- ② 保護者や地域に対する効果的な啓発

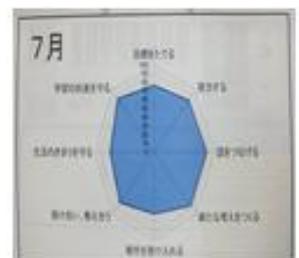
4 本年度の成果と課題 (○成果 ●課題)

研究の成果

- 傾聴の姿勢を示し、受容的で温かい雰囲気の中で、相手の発言を聞き、自分の考えを深められるようになってきた。
- 他者との交流を通して、自他を思いやる気持ちを醸成できた。
- 学級力の状況を分析し、教師と児童との双方向からの学級づくりを意識しながら取り組むことができた。

今後の課題

- 人権教育で育てたい能力・態度を意識しながら「学級力」を育成し、学びを支える「学習スキル」の定着を図り、教科・領域・各種活動のめあてに迫れるように指導力を身に付けていく必要がある。



学級力調査のレーダーチャート